生成 AI「Gemini」を活用した分析結果

2026.7 せとまちトーク フリーテーマの意見分析（案）

１ 「理想のまち」の主な分類と傾向

参加した市民が目指す「理想の瀬戸市」は、下記の６つに分類できます。

分類テーマ	概要（主な意見）	割合 （件数）
1. 交通・インフラ・まちづくり	コミュニティバスの増便・路線見直し、新瀬戸駅前などの複合開発・賑わいづくり、道路の渋滞解消や安全対策、高齢者等の移動手段確保など、生活基盤に関する意見 。	32%(13 件)
2. 子育て・教育・若者支援	若者や子育て世代が住み続けられる環境整備、画一的な教育（宿題等）の見直し、部活動の充実、子ども・若者が活躍・安心して暮らせる場づくりなどに関する意見 。	20%(8 件)
3. 地域振興・魅力発信・観光・アート	1300 年の歴史や陶都としての強みを活かした地域再生、クリエイティブな活動・表現ができる場づくり、インスタ映えやアートを活用した街の魅力向上に関する意見 。	20%(8 件)
4. 市民生活・福祉・健康・コミュニティ	定年延長等に伴う自治会・地域活動の担い手不足対策、高齢者の見守り・互助体制（大人版ファミサポ)、健康増進の場づくり、老朽化した体育館・プール・児童館などの更新に関する意見	15%(6 件)
5. 行政運営・情報発信・DX	AI・スマホ活用や手続きの電子化、図書館機能の強化、市民に届く情報発信手法の工夫、市民の困り事や意見を柔軟に受け付ける体制づくりに関する意見 。	15%(6 件)
6. 環境・ゴミ処理・生活環境	プラごみ・不燃ごみの収集頻度向上や申込手続きの簡素化、産業廃棄物処理施設増加に対する不安と制限措置に関する意見 。	7%(3 件)

＜分析結果のポイント＞

- 最も多かった意見は 「1. 交通・インフラ・まちづくり（32%)」 であり、前回同様に「移動の利便性向上」と「まちの賑わいづくり」が市民生活の最優先事項として挙げられています 。
- 今回の特徴として、「若者・子育て世代が住み続けたくなる・戻ってきたくなるまちづくり（20%)」 や 「AI・DX を活用した行政運営・情報発信（15%)」 に関する具体的な提言・アイデアが多く寄せられました。

２ 理想実現の妨げとなる主な課題（不便・困りごと）

課題分類	概要（具体的な不便の内容）	常任委員会
1. 公共交通・道路等のインフラ不足・過密	コミュニティバスの路線・本数不足（大回りする・行きたい所に行けない)、山・坂が多く移動が不便、道路の渋滞・狭隘（特に子どもや高齢者にとって危険)、駅前の駐車場不足 。	都市活力 総務生活
2. 若者・市民が楽しめる娯楽・遊ぶ場所の不足	瀬戸市を出ずに遊べる屋内レジャー施設やカフェなどの娯楽がない、駅前（新瀬戸・尾張瀬戸）に賑わいや魅力的な場所がない、クリエイティブな表現・活動ができる場がない 。	都市活力 厚生文教
3. 地域活動の担い手不足・コミュニティの薄れ	高齢化や定年延長・共働き増加に伴う自治会や地域活動の担い手不足、学区統廃合等による保護者や地域のつながりの希薄化、一人暮らし高齢者の見守り不安 。	総務生活 厚生文教
4. 公共施設・学びの場の老朽化・使いづらさ	市民プール・体育館・児童館などの老朽化や不足、図書館のリニューアル後の情報不足や学び・交流の機能向上への要望 。	厚生文教 都市活力
5. 情報伝達・行政サービスのデジタル化遅れ	イベントや行政情報が市民に届いていない（「知らなかった」と言われる)、手続きの手間（ごみ収集等の手続)、スマホや AI 等への対応不十分。	総務生活
6. 産業廃棄物への不安・生活環境	度重なる産廃問題に対する不安や不信感、受け入れ制限への要望、プラごみ・不燃ごみの収集頻度の少なさ 。	総務生活

＜分析結果のまとめ＞

- 最大の課題は変わらず「移動（交通・道路)」 ： 公共交通の不便さや道路整備の遅れに対する不満は依然として高く、特に移動手段を持たない高齢者や若者の生活の足の確保が喫緊の課題となっています 。
- 若者の流出・賑わい不足への強い危機感 ： 「瀬戸を出ないと遊ぶ場所がない」「若者が住み続けたい・戻ってこられる魅力がない」といった声が多く、駅周辺の魅力向上や若者向け施設の創出が求められています 。
- 課題解決の手法として「AI・デジタル活用」「民間・企業連携」の提案が増加 ： 市民の意識として、単に行政におまかせするだけでなく、自動運転の活用や企業版ふるさと納税、AI 制御、市民参加型のアイデアなど、先進的な解決策を求める傾向が強まっています 。